

# 生産支援システム導入

## 柱加工機も更新へ

熊谷木材工業

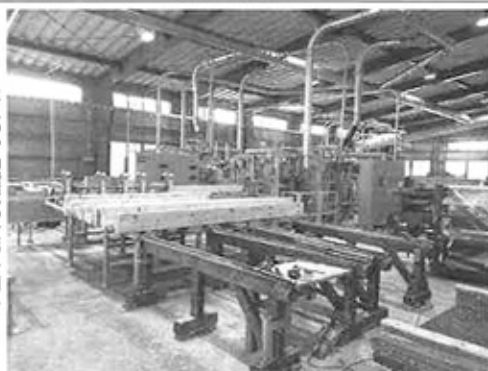
熊谷木材工業（埼玉県熊谷市、飯塚秀司社長）は、生産支援システムの導入に続き、7月に柱加工機の更新を計画している。働き方改革を意識したものの、両事業によって加工能力の平準化と社員の労働環境の改善を図る。

同社はこれまで、加工能力向上のため横架材ライン（横架材中間加工機、横架材スリット加工機、横架材木口加工機）をはじめ合板加工機、高速羽柄三次元切断機、6軸モルダ

1・プレーナーなど積材を保管する自動式ラックの設置など土地の有効活用を図り、製品加工から検品・梱包、出荷まで工場内で一貫して行える環境を整えている。同社の加工量は月20000〜30000坪と堅調だ。今回、各加工機の加

工能力に偏りが生じ社員の負担が大きくなったことから柱材加工機の更新を決めた。加工能力の平準化と労務管理のさらなる健全化が

期待される。また、作業フローの見直し・改善を図るため人員のマネジメントにも取り組んでいる。4月から宮川工機（愛



社員の労働環境の改善を図る

知県豊橋市、宮川嘉隆社長）の生産支援システム・BRAIN8を活用して作業を一元管理している。BRAIN8は営業、購買、生産など全業務でリアルタイムに情報を共有し、コスト削減、業務の効率化を実現する生産支援システム。同社は、加工機の稼働率・生産量、作業工程等の各加工ラインの平準化を図るため同システムを導入。タブレット端末を活用することで社員と情報を共有していく。作業を見える化したことで現在の生産性が明らかになるうえ、問題点や改善点を浮き彫りにすることができ、社員の負担軽減と工場内労務管理の健全化が一層進展する。最終的に出荷管理まで行っていく予定だ。

今回、各加工機の加